

## 総合教育会議 議題案

### 「犬山の教育施策 2021 の成果の検証と 2022 年以降の方向」

#### 【議題案 作成の背景】

教育委員を拝命して1年、犬山市の行政、教育等を今までの外からの視点に加え、中からの視点を持つことができました。そして今まで私がとても多くのことを気に留めていなかったかを痛感しています。

この議題案を作成した最大の理由は、犬山市の特色ある教育を活かした、犬山市の定住人口の増加促進を『教育』という視点から検討できないかと考えたからです。

主なポイントは3つです。

#### 1. 公平性を強くした高校入試(進路指導)にむけて

昨今、高校入試は私立高校への進学率が高く、名古屋市外の公立高校では志願者数が低くなる傾向が見られます。中には定員割れを何年も続けている高校もあります。

愛知県内で「二学期制」を実施している中学校数は418校中75校。尾張学区においては、犬山市・扶桑町・津島市の2市1町だけです。

「三学期制」の進路指導では、7月に部活動等を終えた中学3年が夏休みから本格的に受験勉強に取り組み、志望校に必要な「二学期内申」の獲得にむけて9月・10月・11月・12月は、目標達成のための動き(生活習慣・思考の成長など)に変わっていきます。この4ヶ月の子どもたちの学力の成長は大きく、それ以上に進路に対しての考え方、思考のレベルはかなり大きく成長します。

「二学期制」の現状は、10月に提示される「前期内申」で全ての進路を決定しなければなりません。前期内申点の結果次第では、夏休みの高校見学等で志望校を決めることができたのに、10月の時点で受験が不可能になる場合

もあると思います。中学3年の10月・11月・12月の3ヶ月間の成長、志望校へのモチベーションを阻害する可能性を考えます。

せめて、後期 中間テスト後に私立高校出願・公立高校検討の材料として保護者・子どもに対して、口頭でもいいので、前期内申からの変化(内申点の増減)を伝えることができる仕組みを作ることができないのかと考えました。

令和5年度 高校入試(現在の中学2年)から、愛知県公立高校の入試制度が大きく変わります。内申点の取り扱いも大きく変わります。

教育施策の中に「将来を見据えた主体的な進路選択を支援するため、本人・保護者の気持ちをじっくり聞き取る時間を確保・・・」とありました。

主体的な進路選択を支援する材料の一つとして提供することができれば、他の市町同様に俗にいう『二学期内申』での進路決定・進路選択が可能になります。そして高校進学のための10月からの3ヶ月は、勉強よりの学校生活となり、落ち着いた学校環境、全体の学力の伸長が想定されます。

そしてこのことが、保護者に浸透すれば、充実した学習環境をもち・しっかりとした教育施策のある犬山市の定住人口が増加する1つの要因になると考えます。

## 2. 少人数学級・少人数授業(犬山に合ったカリキュラム)の成果の検証から 今後の改善点を洗い出す

全国学力調査 犬山市の結果、不登校の人数の推移などを過去から現在までの数値を振り返ることにより、小学校・中学校の少人数学級・少人数授業の成果、二学期制の利点を検証し、今後はじまる、小学校での教科担任制、小一中学校の連携(中1ギャップをなくす)をよりよく、効果の高いものにするための方法等を考えてもいい時期ではないのでしょうか。

3. 「教育」も、犬山市の大きな柱にしたい。

大学の入試制度、高校入試制度の変更、GIGAスクール構想、学習指導要領の改訂など、子どもたちをとりまく教育環境は年々変化をしていきます。これらの変化は現実的には今以上に競争が激化していく変化です。

行政が行うサービスはとても充実していると感じています。また「学び場みらい」など学習支援の仕組みもいいと思います。

公教育は「平等」が大切だと考えます。勉強の得意な子ども、苦手な子ども。運動、芸術などの分野が得意な子ども、苦手な子ども。将来性豊かな感性をもっている子ども……。すべての子どもたちの「個性」をより伸ばすための施策を構築し、実践・検証・改善していくことを行い、市内・市外へその成果を発信していくことで、犬山市で子育てをしたい、犬山市で起業したいなど、「教育」という「豊かな人を育てる最強の手段」を用いて定住人口の増加、魅力ある犬山市の教育の更なる発展につながるのではと考えます。

前回までの「いじめ」「不登校」の議題とは全く正反対の議題案ですが、市長、教育長、教育委員会の方々、学校の現場の方々、民間の教育関係者(塾・保育所・クラブチーム運営者)など、様々な意見を拝聴し、議論・方向性を見出す場になればよいのではと考えました。